

第18期 第1回小平市緑化推進委員会 会議要旨

- 開催日時 令和4年9月28日(水) 午後3時～午後5時
- 開催場所 中央公民館 2階 講座室2
- 出席者 椎名委員、山田委員、馬場委員、河野委員、中島委員、
八田委員、上村委員、塩島委員、山下委員、菊地委員(順不同)
- 傍聴人 なし
- 議題 第18期小平市緑化推進委員会の検討課題について
- 配付資料 (1) 第18期第1回小平市緑化推進委員会次第
(2) 第18期小平市緑化推進委員名簿(資料1)
(3) 小平市緑化推進委員会設置要綱(資料2)
(4) 小平市第三次みどりの基本計画 概要版(資料3)
(5) 過去の提言書について(資料4)
(6) 小平市緑化推進委員会第16期、第17期提言書(資料5～7)
(7) (仮称)小平市用水路管理方針の策定について(資料8-1)
(8) 市内用水路に関するアンケート調査(資料8-2)

会議の要旨

- 委員長の選出
委員の互選により、椎名 豊勝氏に決定した。
- 副委員長の選出
委員の互選により、山田 眞久氏に決定した。
- (仮称)小平市用水路管理方針の策定について
事務局より資料8-1「(仮称)小平市用水路管理方針の策定について」、資料8-2「市内用水路に関するアンケート調査」を委員へ配布し、概要を説明した。説明後以下のとおり質疑があった。

委員

市内東部の用水路は水が流れていないが、どのような状態になっているのか。

事務局

現在、市内東部まで流せる水の量を確保できていない。状態については年3回の草刈りを行っており、用水の形態を残している。

委員長

小平市緑化推進委員会による意見聴取については、提言書でいいか。

事務局

委員会の中で出された意見で良い。

委員長

重要な項目になることが想定されるため、歴史的背景や水道局との関係、農業用水の水利権について、次回までに委員が共通認識できるような資料を提供していただきたい。アンケート調査についても認識があるうえで回答する方が望ましい。

事務局

用水路の認識の調査も合わせて、2年かけて管理方針を策定する。

委員長

排水路だと思っている市民もいると思われるため、そこから回答がもらえるように進めて欲しい。他に質問はあるか。

委員

アンケート調査について、小平市のLINEアカウントから送付されるのか、紙での回答になるのか。

事務局

市内在住の方1000件を対象に郵送で送付する。令和3年度に用水路沿い在住の方約450件を対象にアンケート調査を行っている。

委員長

用水路に面している方のアンケートは行ったのか。

事務局

沼さらいの関係団体との意見交換会を行い、参加された方へ調査票を配布した。

委員

用水路沿いに在住している方が沼さらいに参加しているとは限らないのではないかと。

事務局

用水路沿いに在住している方と沼さらいの参加関係者へアンケートを配布している。小平市観光協会や、地域で活動されている団体にもアンケートの配布、意見交換会を行っている。

委員

自治会の方は沼さらいについて熱心な方が多い。小川用水にてホタルを何十年ぶりに確認した。緑道にしたいと考える方もいるが、実態を理解したうえで話を進めていただきたい。

事務局

約20団体から緑道化について話を伺い、防犯上難しいのではないかとという意見があった。どのように用水路を後世に引き継いでいくかを考える必要がある。市へのホタルの目撃情報は増えてきている。

委員長

用水路活用計画の大項目で春の小川の創生とあるが、これを前提として考えるのか。

事務局

用水路活用計画の4つの基本的な方針から、将来用水路を管理するための具体的な策を考えたい。現状で整備できる箇所が限られていることを踏まえ、用水路の維持管理について検討していきたい。

委員長

市内用水路「管理」に関するアンケート調査ではないか。幅広くアンケート調査をするのであれば現状が良いが、管理として限定する方がいいのではないかと。他に質問はあるか。

委員

小川用水は短冊形の農家の生活用水として使われてきた歴史的背景があり、私の用地となっているが、野火止用水と新堀用水は公有地になっている。分けて考える方がいいのではないかと。玉川上水は東京都の管理になるが、野火止用水は市境にもなっているため管理が難しいと思われる。

委員長

野火止用水の協議会では何か具体的に決めていないのか。

事務局

具体的には決めていない。野火止用水は東京都の歴史環境保全地域に含まれるため、その中で対応を行っている。

委員長

野火止用水の半分は小平市であるため、緑化推進委員会で取り上げる必要がある。小川用水や鈴木用水は2本あるが、状況も異なるため、別々に考えるべきではないか。他に何か意見はあるか。

委員

小川用水の用途は他の用水路と違っているのか。

事務局

用途は変わらない。小平市で整備されている水路は環境用水であるため、別途で考えてはいない。用水敷にお住まいの方等に維持管理の手伝いをさせていただいているが、生活用水として流しているわけではなく、条例上、水を汲むことは禁止されている。

委員

小平市の用水の目的は何か。

事務局

農業用水ではなく、環境用水として、環境のために水を流している。

委員

環境のためとは観光などが目的なのか。

事務局

小平市としては彫刻の谷緑道の整備が観光として活用されている部分はある。

○第18期小平市緑化推進委員会の検討課題について

委員長

第18期の緑化推進委員会の進め方として、前半の3回で意見を出し合い、2回から3回で意見内容を検討し、後半の3回までで意見をまとめていく作業を行おうと考える。これま

で各期において、第1回と第2回については各委員の意見や理想の形、具体的な要望などを出し合っている。今期についても、その意見等を論議や協議した結果で項目をまとめ、提言書として進めていく。

まずは、各委員から自由なご意見を出して頂いて、日頃感じている緑に関することについて、お一人ずつお話を頂きたい。

委員

カエントケが小学校付近に生えていた。子供たちが触れられるような場所にも危険なキノコが生えていることが印象的であった。

委員長

子供たちに向けて自然教育が必要ではないか。カエントケのように危険なものについて教えておく必要がある。提言書のなかでも考えていけるといいと思う。

委員

小平市の都市計画公園として予定されている鎌倉公園と鷹の台公園について、小平市としては防災公園にしたいのか、遊具を充実させたいのか、市としてどのように考えているのかを聞きたい。また、街路樹の管理方針について委員会の中で検討したいと考えている。

委員

ナラ枯れについて引き続き対策をしていきたい。用水と雑木林の繋がりと大切さについて話し合いたい。

委員

ごみのポイ捨てや樹木の植え替えについて考えたい。緑道を大切にすることで二酸化炭素の削減や百年構想に繋がれるといいと思う。

委員長

緑道のマナーや環境美化については過去になかったので、提案できればと思う。

委員

ナラ枯れの対策で上手く進んでいない部分がある。如何にして早く止めるかを検討したい。対策としてどんぐりの里親制度を行っており、コナラの伐採痕に補植することで回復を図っている。立派に成長しており、ナラ枯れへの対応策として利用していきたい。

上水新町の保存樹林内でカエントケを発見した。カエントケは、触っただけで皮膚がただれてしまう毒性の強いきのこである。本来は群馬県や長野県などの森林性の高い場

所に生えているきのこが平地の雑木林に発見された。ナラ枯れになったコナラを伐採した後の伐採痕が腐り、菌床として発生する。子供たちが触れてしまうことへの注意は必要である。

上水新町地域センターの南側の樹林にTWTトラップを設置し、トラップに入った虫を集計しまとめた。市にもこの作業をお願いしていたが、無理な作業である。結果はカシノナガキクイムシ（以下、「カシナガ」とする。）が多く入っており、早く枯れている木は多く入っていた。カシナガの幼虫を食べる天敵を増やすことで防除する方法もある。今後防除策について検討したい。

特に検討したいのは、カエンタケについてである。小平市では初めて出たものでもあるため、ホームページなどで注意喚起をお願いしたい。

委員長

ナラ枯れについては令和3年4月15日に緊急提言をしたが、今年の結果は出たか。出たのであれば、委員会にて報告をしていただきたい。緊急提言とするのかを検討していく。用水と雑木林を平地で多く持っているのは小平市くらいのものである。守っていくためにもカシナガには注意が必要である。ナラ枯れが確認されてから3年目を迎えるので、終息に向かうことが想定されるが、風の影響で落枝などが頻繁に目撃されているため、人間への被害が出る可能性もある。緊急提言によって小平市では対策が取られているが、雑木林の管理区域を明確にしたうえで検討していきたい。

観光まちづくり協会の作成したパンフレットは素晴らしいと思う。

用水路については一步踏み出す大事な内容である。直近の5、10年の間に新しく小平市へ来られた方の人数を報告していただきたい。用水路の認識について確認し、啓発になればと思う。

委員

ナラ枯れした樹木の伐採は1本につき5～10万円程かかるときいた。予算はいくら準備できるのか。屋敷に生えている名木や大ケヤキなど維持管理には多くの費用が掛かるので、私達にできることがあるか考えたい。

玉川上水と新堀用水の創価高校から朝鮮大学校辺りについて、歩道脇のツツジやススキの背が高くなり、犯罪のもとになっているため、手入れが必要である。昨年、夕方頃に犯行が増えたが、警察も手を焼いていると聞いたため、抑止したい。

沼さらいをするとカンやビンが山ほど出てくる。小川用水を跨ぐ道路に柵を設置していただき、捨てられないようにしてもらったが、とても驚いた。

小川用水は家庭の敷地を流れる箇所もあるが、景観については、コンクリートの壁や鉄板など、家庭毎に異なっている。景観について、何か方向性は見つけられないか。

委員長

ナラ枯れと防犯は関係がある。樹木の伐採によって高い木が無くなると、下草が伸びやすくなり、ススキなどは背が高くなる。雑木林を守ることは防犯上でも意味がある。草刈りも必要なくなる。防犯についても重要な項目である。

委員

経済林である小平村ができ、赤土から守るために屋敷林ができ、農業の肥料のためにコナラとクヌギの雑木林ができた。小平の雑木林を守ることは生活を豊かにすることに繋がるため、検討したい。

庭木が所有者の高齢化などにより伐採できず、通学路などに重なってしまう。緑を守ることは手がかかるため、経済体系を組織できないか。

委員長

経済林だったものをどのように現代に反映させるかは大きな問題である。環境を守り、市民が享受している感覚を得られるかどうかは重要である。

委員

60年前に田無の芝久保から生えていたケヤキがほとんど伐採されてしまったことは寂しい。

公園にあるケヤキが大きくなりすぎてしまい、下に生えている木や草の元気がなくなっていたり、コケなどが生え、子どもを遊ばせられなくなっていたり、藤棚の下の砂場にビニールシートが被っているため、遊べなくなっている。ベンチにはカビが生えていたりするため、座れない。子どもにとって何が必要かアンケートをして欲しい。

あかしあ通りのアカシアは台風などで倒れていることがあり、植え替えが必要ではないか。街路樹の選定から見直していく必要があると思う。

家庭で出た剪定枝などは回収していただけるので助かるが、プランターなどで植栽をしている場合の赤玉土の廃棄、あるいは回収を年1回程度していただきたい。若い人も園芸しやすくなるのではないか。

小平ふるさと村付近に手打ちうどんの店があるが、武蔵野美術大学近辺の小麦畑から購入するなどしてうどんを作るイベントなどを行うのはどうか。

委員長

家庭の土などの問題について踏み込む必要があるのではないか。家庭の事情ではあるが、緑化推進委員会では取り上げてもいいのではないか。

委員

小平市のみどりの広報について話したい。学校で小平市の魅力について問われる中で、

みどりについて良いところが沢山あるにも関わらず、伝わっていないと感じる。伝わることで、用水路や自然教育の知識が深まると考える。

市の関わるイベントに参加したいと思うが、団体に所属していないと参加できないことも多い。1人でも参加しやすいイベントをしてもらいたい。

委員長

団体に所属できない人もいるなかで、広報の方法についても検討する必要がある。

他に意見はあるか。後3回程度繰り返し、意見を擦り合わせていきたい。なければ本日はここまでとする。

以上